Ⅳ-72　歴史的港湾の保存整備計画手法に関する基礎的研究：手結港及び鞆港におけるケーススタディ

東京工業大学　学生員　水野雅男　正員　渡辺貴介

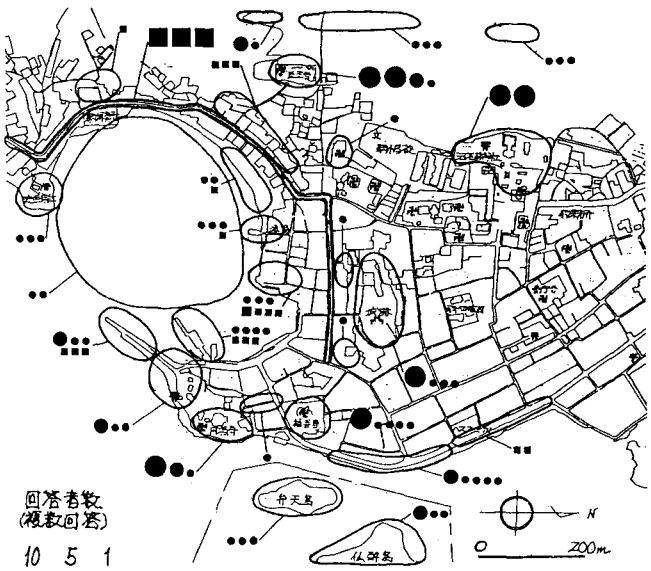
1．はじめに　歴史的港湾は地域特性をよく反映しているにもかかわらず、その多くが港湾機能及び周辺環境の変化により利用価値を減じられていて、放置すれば崩壊，消失の途を辿るであろうことが指摘されている。この様な状況を背景として、地域住民の意向を反映した歴史的港湾の保存整備計画の手法が求められている。現在一部の歴史的港湾に関し、その保存整備の意義及び対象を学術的な面から調査研究されている。一方港町の住民にとっては、歴史的港湾は生活空間の一部であるからその保存整備は環境整備として要求される。これが生活空間としての保存整備の意義及び対象である。この両者の意義及び対象を調整し望ましい保存整備形態を得るのが保存整備計画と考え、本研究では高知県の手結港と広島県の鞆港において住民の意識を、地図に書込んでもらう問いを中心とした調査票のアンケート調査を行ない生活空間としての意義及び対象を明らかにする。

2．港町における歴史的港湾への住民の評価

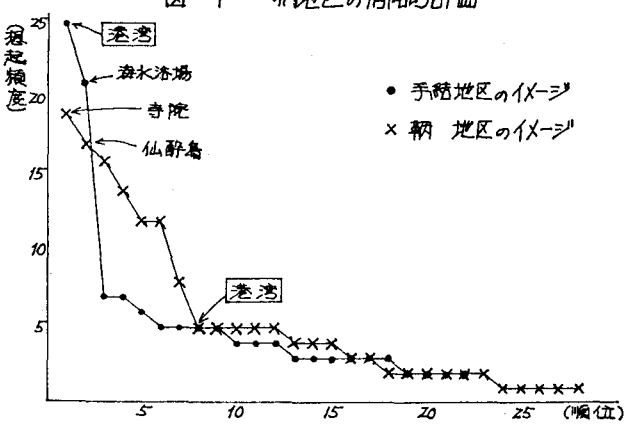
(1)手結地区では臨港道路が幹線道路となっているため、生活行動の中心に港湾が位置しているのに対し鞆地区では臨港道路は幹線道路ではないため、港湾が生活行動の中心となってなく、港湾を毎日眺める人が非常に少ない。

(2)両地区の情緒的評価のうち、気の休まる場所，好きな場所，誇りに思う場所という良い評価が集中しているのは、防波堤など海や港湾に面した場所と地区の背後の山腹などの小高い場所であり、いずれもそこから海，港湾，街並が一望できることが良い評価の理由となっている。又歴史を感じさせる神社仏閣や港湾にも良い評価が集中している。逆に悪い評価として嫌いな場所は、海水がゴミなどで汚染されたり漁具等で美観をそこねている場所で港湾と交差に集中し、不便な場所は狭い道路に集中している。この様に両地区とも港湾が住民の心の支えになっているにもかかわらず、汚染されているため悪い評価も集中している。（図－1　参照）

(3)手結地区では港町として港湾と海水浴場を中心にイメージされているが、鞆地区では神社仏閣，仙酔島，鉄鋼業，風景が中心イメージで、港湾はほとんどイメージされていない。この違いは、生活行動領域の違いから生じていると思われる。（図－2　参照）



図－1　鞆地区の情緒的評価

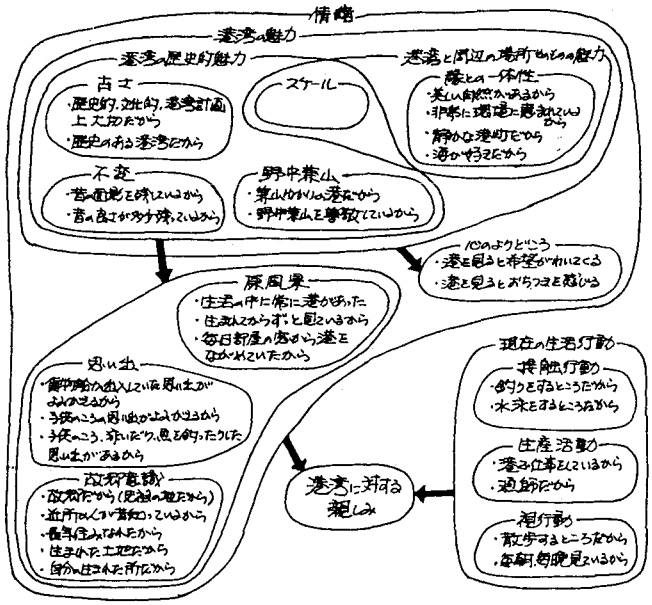


図－2　両地区のイメージ

3. 住民が感ずる歴史的港湾への親しみ

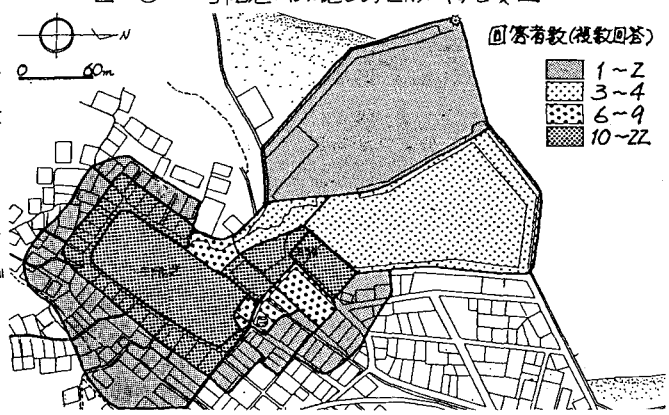
(1)歴史的港湾への親しみを形成する要因は港湾から生ずるものと個人から生ずるものがある。港湾から生ずる要因は、古さ，不変，スケールといった歴史的な魅力と周辺も含んだ空間の自然環境等の場所そのものの魅力がある。又個人から生ずる要因は、思い出，原風景といった港湾の魅力との精神面での接触と、生産活動，視行動といった現在の生活の行動面での接触とがある。特に港湾史蹟に学術的価値を認める学識者だけでなく、住民も歴史的港湾に歴史的な魅力を強く認識していることが明らかになった。（図－3 参照）

(2)住民の属性と親しみの関係をクロス分析した結果、ア)男性，イ)他地区での居住歴がない，ウ)居住年数30年以上，エ)家の位置が港湾に近い，オ)過去も含めて漁師の家族がいる，以上の属性の人の方がそれ以外の人よりもより強い親しみを感じていることが明らかになった。



図－3　手結港への親しみを形成する要因

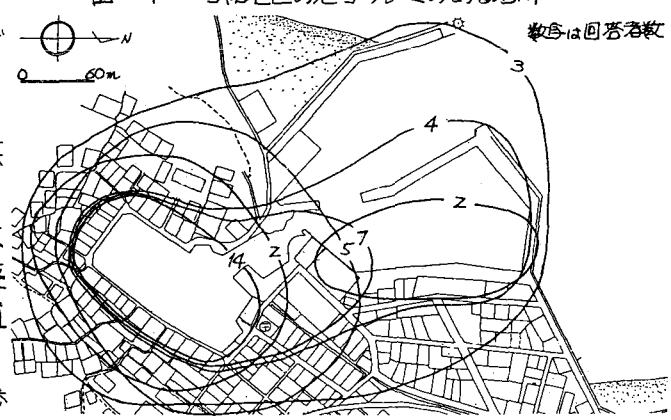
(3)港町らしさのある場所は、手結地区では漁協，市場を中心として、鏡地区では荷揚げ場を中心として港湾と港湾に面する建築群へと広がる領域が指摘されている。（図－4 参照）



図－4　手結地区の港町らしさのある場所

(4)港町らしさが失なわれた場所は、コンクリート造りの土木構造物や建造物とゴミなどで汚染され雑然としている場所が両地区とも共通して多く指摘されている。

(5)住民が港町と認識している領域の最小共通認識領域は、(1)の非常に港町らしい領域とほぼ等しい。これは港湾史蹟を中心とし、水域施設，岸壁，臨港道路，港湾に面する建築群が一体となった領域である。この最小共通認識領域を中心に港岸沿いに領域が広がり、7～8のパターンが見られる。（図－5 参照）



図－5　手結地区の港町として認識される領域

主要参考文献　　運輸省港湾局環境整備課：港湾修景計画基礎調査報告書　1982